

令和5年度 第2回 歯科口腔保健推進検討部会 議事録	
日時	令和5年11月8日(水) 18時59分～20時03分
開催場所	市庁舎18階みなと6・7会議室
出席者等	歯科口腔保健推進検討部会委員 14名(別添名簿のとおり)
開催形態	公開(傍聴者1名)
議題	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 横浜市歯科口腔保健推進計画(原案)について</p> <p>(2) 横浜市歯科口腔保健推進計画に基づく主な取組について</p> <p>4 報告</p> <p>(1) 健康に関する市民意識調査について</p> <p>(2) 令和5年度 歯と口の健康週間行事について</p> <p>5 その他</p>
1 開会	
2 あいさつ	
3 議事	<p>(1) 横浜市歯科口腔保健推進計画について</p> <p><【資料3-1】横浜市歯科口腔保健推進計画 原案(案)</p> <p>【資料3-2】第3期健康横浜21素案に係るパブリックコメントの結果概要について</p> <p>【資料3-3】横浜市歯科口腔保健推進計画 概要版(案)</p> <p>【資料3-4】第3期健康横浜21 策定スケジュール(予定)</p> <p>【資料3-5】第3期健康横浜21素案></p> <p>事務局から資料3-1、3-2、3-3、3-4、3-5について説明</p> <p>(山本部会長)</p> <p>事務局の説明について質問、意見を伺う。</p> <p>(二宮委員)</p> <p>障害児及び障害者に関して、在宅で療養されている方の現状を把握する必要性が書いてあるが、もう少し積極的に推進してもよいのではないかと。</p> <p>現在、横浜市医療局が障害児・者の大規模調査を行っているので、次のステップに進む計画はその調査結果を踏まえて策定してはどうか。</p> <p>(事務局)</p> <p>この計画はつくってしまえばそれで終わりというものではないので、様々なアンケート等で新たな数値などが出てくれば、それを反映させて、さらに検討を進めていきたい。</p> <p>(清水委員)</p> <p>いわゆる健常者でも歯をきれいに磨けているのは約8割であり、2割は磨き残しがある。障害者の場合には自分で磨けるのが2割で、8割は医師や歯科衛生士が介助して行う。そのためには人手が要るので、医療局の調査を踏まえて障害児者の歯科診療を行う二次医療機関の新設を願う。</p> <p>(山本部会長)</p>

横浜市歯科口腔保健推進計画原案については、本日の議論を踏まえて事務局で必要な修正・検討を行い、その確認は私に一任していただいでよろしいか。

今後は11月28日の健康横浜21推進会議に本計画の原案を上げ、第3期健康横浜21と一体的に審議し、令和6年第1回横浜市会定例会における議決を経た後に計画を公表する予定である。審議過程で原案の修正が必要となる場合は、私と事務局で最終調整等を行う。

(2) 横浜市歯科口腔保健推進計画に基づく主な取組について

<【資料4】横浜市歯科口腔保健推進計画に基づく主な取組（令和6年度～）>
事務局から資料4について説明

(山本部長)

事務局の説明について質問、意見を伺う。

(二宮委員)

オーラルフレイルは国の骨太の方針の中に記載されている国の重要政策の1つであり、本市にとっても非常に重要であると認識している。オーラルフレイルでは成人期については「大学や専修学校と連携」、高齢期については「関係機関等と連携」と書かれているが、それを「大学や専修学校、関係機関等と連携」として、いろいろな団体による連携の重要性を皆で啓発できるようにしたほうがよい。

(事務局)

これまでの部会において、特に成人期については関係団体でもできるのではと同様のご意見をいただいていたので、「関係機関」と付け加え、今後ご協力いただき、取組として進めていただきたい。

(山本部長)

神奈川県による成人の歯科保健の大調査データを分析してみると、オーラルフレイルを知らない人の中にそのリスクが高い人が多いという結果が出ているので、まずオーラルフレイルについて知ってもらうことが非常に重要である。

横浜市のデータ分析についても、大学を活用いただければと思う。

(堀元委員)

オーラルフレイルの前段階を予防することによって全身のフレイル予防にもなるということ意識した書き方も必要なのではないか。

女性の場合には女性ホルモンの影響で歯肉炎が出てきたりするので、歯科口腔保健において今後は女性という視点からの取組も必要である。

(事務局)

フレイルや女性の視点についての追加は、実際にその取組ができるかどうか関係部署と相談しながら検討していきたい。

(石黒委員)

妊産婦の健診の補助券は他市でも使えるのに、歯科健診だけは横浜市の限られた医療機関でしか使えず、もともとかかりつけ歯科医がある方や、私のように里帰りをする歯科健診を受けにくいので、そのような点がうまくいけば、もっと普及するのではないか。

(藤田委員)

乳幼児期の口腔ケアに関して、保護者にはその知識がない場合もあるので、施設職員を

対象とした研修は本当に大事であり、職場でもそれをきちんと保育士に意識づけるとよい。

(石黒委員)

成人期のところに「大学や専修学校と連携」と書いてあるが、学齢期や障害児及び障害者のところでも大学、専修学校と連携した普及活動ができると思うので、これをそこに付け加えてもよい。

(山本部会長)

ライフステージ・対象像に共通する項目として連携を加えるか、全部のところに連携を書いてもよいかもしれない。

(鈴木委員)

学校の場合には、既に各校に学校歯科医が配置されているので、外部の力を借りる前に、まず学校の中にある力をさらにしっかり高めていくことを優先すべきかと思う。

(山本部会長)

事務局でよく検討し、書き加えられそうであれば書き加えていただく。

横浜市は、横浜市の全学校の学校歯科医リストを持っているのか。

(堀元委員)

持っている。

(山本部会長)

歯科医師会が持っているのか。

(堀元委員)

教育委員会である。

(山本部会長)

それは公立だけであり、私立はないのか。

(堀元委員)

公立だけである。

(中里委員)

薬局薬剤師会としては健診等はなかなか手伝えないが、糖尿病等の表現も今回原案に出てきており、薬局を使ってその受診勧奨等にも取り組めるので、そのあたりの連携の文言も入れてもらえればと思う。

(山本部会長)

糖尿病連携とか、かなりよいかもしれない。薬局に糖尿病患者が来たときに、歯周病との関係のパンフレットを市が準備していれば渡すような取組を今、行っているか。

(中里委員)

今はそのような取組はやれていないが、受診に関して糖尿病と歯周病を関連づけて患者に情報提供ができるようなシステムづくりができれば、薬局も使ってもらいたい。

(山本部会長)

それは非常に心強い。

(堀元委員)

糖尿病の重症化予防事業の中で特定健診の受診率を上げようということで、歯科医師会として、その周知を会員の診療所で行っている。糖尿病の合併症の早期発見や治療中断を

防ぐ連携が横浜市の行政主体で動いている。

(板山委員)

高齢期のオーラルフレイル予防の普及啓発に関しては、地域ケアプラザでも従来から取り組んでいるので、かなり協力できると考えている。

自宅を訪問しての歯科保健指導については、それができることについて在宅に関わっているケアマネジャー等に普及するよう伝えてもよいのではないかと。

(山本部会長)

市民と専門職をつなぐいろいろな立場のキーパーソンを上手に使えるような仕組みづくりをするとよいのかもしれない。

(蟹澤委員)

保健活動推進員として地域での様々な啓発を行っているが、災害時の口腔ケアの重要性についてはまだ伝え切れていないので、これからは伝えていこうと思っている。

(山本部会長)

災害時についての文章を2つに分けて災害時だけの内容にすると目立ってよいかもしれないが、いかがか。

(事務局)

災害時になれば命を守ることをはじめとして優先すべきことがたくさんあり、歯科のことだけを周知する機会をつくることは難しい。そのため、普段行っている歯周病やオーラルフレイルの予防教室などの流れの中に災害時についても一言加える方策だと、実施可能ではないかと考え、このように記載した。

(山本部会長)

よく分かった。書きぶりを少し検討してもらえればよいかもしれない。

(長谷川委員)

栄養管理と口腔管理は密接に関連しており、全てのライフステージに栄養士も関わっている。参考資料の「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の全部改正について」を読むと食育と口腔関連のところ結構出てきていたが、ますます連携が必要であると思う。

来週11月12日に健康チャレンジフェアが開催され、そこで神奈川県歯科医師会と歯科衛生士会と栄養士会とでオーラルフレイルについてのスタンプラリーを行う。

全ライフステージにおいて歯科と栄養は関係しているので今後とも連携していきたい。

(山本部会長)

切っても切れない縁なので、よろしくお願ひしたい。

(二宮委員)

東日本大震災や熊本地震等においても災害関連死の二、三割は誤嚥性肺炎によるものであり、東日本大震災のときには発災直後に肺炎の死者が3倍に増えたという報告もある。

災害時についての啓発活動は非常に重要であるが、同時に、災害が起きたときに歯科衛生士が口腔ケア活動を行うとか防災備品として歯ブラシ等を用意するとかの支援体制を築き上げる必要もある。

(山本部会長)

計画を推進するためには関係する皆がそれぞれの分野での取組を行うことが重要なので、本日の議事を踏まえて歯科口腔保健を進める取組を検討いただければ幸いである。

<p>4 報告</p>	<p>(1) 健康に関する市民意識調査について</p> <p>(2) 令和5年度 歯と口の健康週間行事について</p> <p><【資料5-1】健康に関する市民意識調査 調査票の内容について(令和5年度第2回 第二期健康横浜21計画評価及び次期計画策定検討部会 資料3-1)</p> <p>【資料5-2】健康に関する市民意識調査 調査票案(令和5年度第2回第二期健康横浜21計画評価及び次期計画策定検討部会 資料3-1)</p> <p>【資料6】 令和5年度「歯と口の健康週間」行事の実施報告></p> <p>事務局から資料5-1、5-2、6について説明</p>
	<p>(山本部会長)</p> <p>事務局の説明について質問、意見を伺う。</p> <p>(堀元委員)</p> <p>市民意識調査の問37の「あなたは次のうち、歯周病が原因となる可能性がある」という表現は誤解を招きかねないので、「歯周病と関係がある可能性がある」とか「影響を及ぼす可能性がある」とかの記載にしたほうよい。</p> <p>(事務局)</p> <p>医学的に正しくされたいということによろしいか。</p> <p>(堀元委員)</p> <p>「原因」とすると歯周病が原因であると誤解されかねないので、ここは「歯周病が影響を及ぼす可能性がある」とか、そういった意味合いのほうがよい。</p> <p>(事務局)</p> <p>修正する。</p> <p>(山本部会長)</p> <p>これは今から修正できるのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>少し文言を変える程度なら可能である。</p> <p>(石黒委員)</p> <p>先ほどの市民意識調査の問34の注記にある「親知らずを抜く」は抜歯のことではなく、親知らずを除く28本という意味だと思うが、「抜く」では両方の意味に取れるので「除く」としたほうが分かりやすい。</p> <p>(山本部会長)</p> <p>「親知らずを抜く」を「親知らずを除く」にしたらどうかという意見である。</p> <p>(事務局)</p> <p>別の調査の問いと表現をそろえたのだが、ご意見の内容で検討する。</p>
<p>5 その他</p>	<p>(事務局)</p> <p>本日出された意見を受けた修正について、部会長と調整の上、原案に反映させたい。別途、委員に個別に意見を伺うことがあるかもしれないので、その際はよろしく願う。</p> <p>この後は、市会での議決を経た後に第3期健康横浜21と一体的に来年3月頃、公表する予定である。公表に当たっては、委員各位に改めて連絡する。</p> <p>次回の部会は来年に入ってからになる。日程については改めて調整を依頼させていただ</p>

	くので、よろしく願う。
閉会挨拶	
閉会	